

令和5年度学校経営計画 学校評価書（まとめ）

岡山県立岡山城東高等学校

学校経営計画 ミッション追求のための取組 及び 重点的取組	分 掌 名	具体的な方策	目標とする状態・達成基準	達成状況（中間）	中間評価	達成状況（最終）	最終評価	結果分析及び改善策
<p>ミッション追求のための取組 生徒とともに</p> <p>【1年次「基盤づくりと学類選択」】 ・基本的生活習慣の確立と主体的に学ぶ態度の育成 ・互いを尊重する人間関係の構築、多様な体験による自己の理解と発見、自己実現に向けた学類選択への支援</p> <p>【2年次「活動の充実と進路選択」】 ・学類を特色付ける教育活動や発信の充実を通じた、高度な知識・技能を活用するための高い思考力、判断力、表現力の育成 ・探求的な学びや学校行事を通して協力し助け合う人間関係の構築、キャリア形成と進路選択への支援</p> <p>【3年次「自己実現」】 ・学びを自らの意思と意欲で深化させていく資質や能力、態度の涵養 ・自己実現に向け、互いに支え高め合う人間関係の構築と、卒業後の人生設計を踏まえた進路決定への支援</p>	1年次団	「予習・授業・復習」の学習習慣と3点固定の生活習慣を確立させるとともに、学校行事や委員会活動、部活動に協働的に、自律的に取り組ませる。	勉強と部活動、学校行事とのバランスを自分で上手にとり、すべきこととできることを前向きに考え、協力して取り組むことができる。	年度当初は学習習慣の確立に苦しんでいたが、次第にバランスがとれてきつつある。年度当初のオリエンテーションや翠緑祭などを経験して、協働的、自律的に物事に取り組む意義や楽しさを学ぶことができていく	B	学校自己評価の、学校行事が充実している、生徒会・委員会活動が活発に行われている、という項目の数値は高く、自律的、協働的に取り組めたと評価できる。学習面においても意識が向上してきている	A	「予習・授業・復習」の学習習慣と3点固定の生活習慣が十分に確立できていない生徒もいるので、その生徒に対する意識付け、動機付けが課題である。
	2年次団	学校の中心年次として、学校行事、部活動等で生徒同士が協働して取り組み、自主的・自律的に行動できるよう支援する。また諸活動を通じて自らの適性を知り、よりよい進路目標が設定できるよう支援する	積極的に挑戦する姿勢をお互いに尊重しながら、支え高め合う人間関係が構築できている。学校自己評価において関連する項目(5, 12, 20)の生徒平均値が4.3を超える。	翠緑祭やオープンスクール、部活動などにおいて、中心年次としての自覚を持ち、生徒同士で協働し、取り組むことができていく。	B	学校行事や部活動、委員会活動等で中心年次としての自覚を持ち、コロナ後の新しい在り方を模索しつつ、協働的自律的に取り組み、成果を上げることができた。学校自己評価(5.12.20)の生徒平均値も4.3を越えている。	B	諸活動で中心となる生徒が目標高く自主的に取り組める一方抱え込む傾向にもあり、集団としてフォロアーシップのさらなる涵養が求められる。
	3年次団	最終年次として、部活動や学校行事など全てにおいて全力でやり切れ、面談や年次集会だけでなく日々の指導や声かけを通して、受験への切り替えについて支援する。	生徒一人一人が自らやるべきことを判断し、全力で取り組んでいる。また、生徒同士が互いに認め、高め合う集団になる。	多くの生徒が部活動で最後まで全力で取り組み、やり切ることができた。翠緑祭もクラスの模擬店などにさまざまな場面で協働して取り組めた。	B	多くの生徒が翠緑祭で切り替え、真摯に受験勉強に取り組んでいる。担任を中心に面談などを通して進路指導、受験指導を行い、生徒の進路実現に向け、支援を継続している。	B	3年次になり部活動や多くの学校行事がコロナ前に戻り、生徒のやり切った気持ちが大きかったと思われる。ただコロナの影響もあり、生徒の休むことへの抵抗感が薄れているように感じられるので、出席することの大切さを生徒へ意識付けすることが課題である。
	進路指導課	キャリアカウンセリングとしての面談に加え、大学説明会の開催や学習支援、土曜講座などの充実を図り、主体的な学びを後押しし、主体的で多様な進路選択、およびその実現を支援する。	大学説明会や学習支援について、継続的な実施と内容の充実がなされ、多くの生徒が積極的に参加している。学校自己評価4「城東高校は、自分の進路選択に向けて、面談や講習会などを通じてきめ細かな指導を行っている」の評価を保持する。	大学説明会は名古屋大学を始め5回実施、年次を問わず多くの生徒が積極的に参加している。学習支援については、現代文を加えて3教科とした。のべで約190名の生徒が受講した。	B	大学説明会7回、卒業生による説明会も実施できた。1、2年次も大勢参加し、3年次では進路決定にも役立った。学習支援も、教科を増やす、一部オンラインの活用など、生徒がより受講しやすいよう変更した。	B	生徒の可能性を広げ、深めるための機会の提供は、徐々に定着してきた。今後も形式や項目を検討し、より有用なものにしていきたい。適度に外部刺激を取り入れることで、日常を振り返り、ステップアップできるよう、担任団、教科と連携して進めていきたい
	国際課	海外文化体験研修、海外修学研修、交流会、講演会等の活動の充実を図る	50名程度の1年次生が海外文化体験研修に、20名程度の2年次生が海外修学研修に参加する	海外文化体験研修カナダに36名、FLATに20名が参加し、有意義な活動を行い、英語力を磨き、異文化交流を通して見聞を広めた。海外修学研修の参加予定者が17名となり、3月の研修に向けて準備を行っている。	A	海外文化体験研修カナダに36名、FLATに20名が参加し、有意義な活動を行い、英語力を磨き、異文化交流を通して見聞を広めた。海外修学研修の参加予定者が17名となり、3月の研修に向けて準備を行っている。	A	新型コロナウイルス感染症による規制がなくなり、英語力を磨き、国際交流によって見聞を広げたいと考えている生徒たちが、行動できるようになった。今後は、海外における研修地やプログラムの充実を図る。
	GLOBAL	「総合的な探究の時間・学校設定科目」における地域密着の課題研究の取組を充実させ、課題解決能力や、他者と協働する力を育成する。	学校自己評価アンケートの質問項目「城東高校は、他者と協力してさまざまな課題を解決する力がつく学校である」の生徒平均が4.1を超える。	必要に応じて各年次GLOBAL係で会議をもち情報共有することで、縦横の連携をとりながらの適切な運営がなされている。講演会や企業訪問等の事前学習・事後学習（振り返り）において、昨年度より充実した取組がなされている。	B	1年次企業訪問や国際交流の活動内容の拡大・充実等、種々の活動をブラッシュアップした。学校自己評価アンケートの質問項目「城東高校は、他者と協力してさまざまな課題を解決する力がつく学校である」の生徒平均は4.4で、昨年度を大きく上回った。他のグローバルに関する質問項目も数値が上がっており、種々の取組成果が生徒に届いたと判断できる。	B	外部への発表等、年次によっては定期的に準備日程の確保が難しいものもあるので、改めて係で内容を精選するとともに、より生徒の主体性を引き出す仕組みを考えていきたい。
<p>ミッション追求のための取組 保護者とともに</p> <p>共に生徒を育てるよきパートナーであり続けるために、対話・情報共有を積極的に行う。 ⇒保護者懇談・三者懇談の充実、公開授業・学校行事の開放等の開かれた学校づくり等</p>	1年次団	相談課、保健室、医療機関等との連携を密にして、生徒・保護者の理解に努め、悩みを抱えた生徒を支援する。お互いを認め合い、自己も他者も大切にできる集団作りをする。	悩みを抱えた生徒に対する必要な支援を早期に行うことができる。生徒自身が協働的な取り組みを通して自己肯定感を高め、安心して学校生活を送ることができる。	悩みを抱えた生徒、保護者に対して、相談課、保健室、医療機関等との連携を図りながら支援をすることができている。各クラス担任が生徒と程良い距離を保ちながら接していて、登校できなかった生徒も多少登校できたり、先のことを考えたりできるようになってきている。	A	全く出席出来なかった生徒が担任や相談室のお陰で出てこられるようになった。しかし、悩みを抱えた生徒や保護者に対して、まだまだ支援できることがあると考える。相談課、保健室、医療機関等との一層の連携を図っていく必要がある。	A	担任の粘り強いアプローチの賜である。しかし、もっと生徒支援を行う教員への支援も充実させていく必要がある。相談課、保健室、医療機関等との連携を図ると共に教員間の連携も密にしていきたい。
	教務課	6月と10月に保護者対象の授業公開を実施し、学校の実態について理解を深めるとともに、教員が取組について改善を図る契機となるようアンケート結果を全教員に共有する。	保護者が城東高校の授業に理解を示し、自らの声が学校に届いていることを実感できている。	6月28日、29日の2日間、保護者対象の授業公開を実施し、153名の参加者があった。81名の保護者からアンケートの回答があり、すべての回答を年次ごとに一覧にし、全教職員で共有した。	B	10月31日、11月1日の2日間、第2回保護者対象の授業公開を実施し、96名の参加があった。57名の保護者からアンケートの回答があり、第1回に続いてすべての回答を年次ごとに一覧にし、全教職員で共有した。	B	2回の実施で寄せられたアンケートでは、城東高校の授業に対するマイナス評価は全くなかった。各年次からはほぼ例年並みの保護者の参加があったことで、施設、設備を中心とした保護者の声を学校に届ける一助になっている。
	生徒課	翠緑祭実行委員会を中心に、ClassroomやClassiによる活動情報の共有を図り、全生徒が参画できる内容を企画する。	翠緑祭において、生徒が主体となり安心・安全を保ち、一般公開ができるように企画・運営ができる。	Classroomを用いて新しい試みや翠緑祭の一般公開（約3000人）を成功させることができた。予定を早期に提示するなど、早めの準備を行い、生徒主体で実施することができた。	A	一人1台端末を効果的に活用し生徒同士が協力し合って翠緑祭に取り組めた。一般公開（約3000人）を成功させることができ、生徒会活動の成果発表としても保護者に示すことができた。	A	コロナ禍前にもどした規模で翠緑祭を成功させたので生徒にとって大変満足のいく行事となった。今後は部活動や翠緑祭など生徒の活躍を校内のみならず保護者や地域へ発信し、生徒会活動を理解・支援していただける環境をさらに整えていきたい。
<p>ミッション追求のための取組 地域とともに</p> <p>本校の教育を広く発信して本校教育への理解を促し、支援者・実践者を増やすことで協働して生徒を育てる。 ⇒グローバル・リーダー育成拠点構築事業を軸とした、外部機関連携や地域とつながる活動の推進等</p>	総務課	・オープンスクールや学校説明会、本校HPにおいて、生徒が主体となって活動する様子を積極的に発信する。 ・特にオープンスクールにおいては、学校の様子を生徒自らが発信することで、生徒の自主的自律的行動力も育成する。	・在校生の活躍を中学生・保護者が好意的に受け止め、「求める生徒像」を理解した上で本校を志願している。 ・生徒のメタ認知として、自主的・自律的行動力が高まっている。	オープンスクールの生徒主体で実施した。アンケート記述内容は、95%以上が肯定的な記述であるなど、本校の特色を十分に発信できた。学校説明会についても、95%以上が肯定的な評価であった。7、8月の体育館開催については喫緊の課題として協議を要する。ブログ・HP更新もチームで分担しながら順調に行えている。	A	オープンスクールの規模拡大、ブログ・HP起案ルートの簡略化によるスピーディーな公開、各課長と連携した学校広報スライドの一新等、既存の取組の見直しがあった一年であった。学校主催の説明会アンケートでは、各項目の肯定的評価が、最も高いところが99.7%、最も低いところが98.0%であり、大きな成果があった。7、8月の体育館行事の開催について、広報の効果担保しながら、大きな見直しを提案した。	A	次年度に向け、種々の広報活動を整理したので、その周知とともに、実施後の成果検証を丁寧に行っていきたい。
	GLOBAL	グローバル・リーダー育成拠点構築事業の取組を外部発表や成果報告会を、オンライン等も含めた多様な手法で発信する。	各種発表会への参加、成果報告会の開催、オンライン等も含めた多様な手法で発信し、受け手のニーズに応える。	回覧等も活用しながら各年次団と連携をとることで、外部発表の情報を生徒に発信し、生徒の主体的な参加を促した。	B	共有した情報により、岡山大学以外の大学からも指導助言を依頼することができた。Classiで配信した外部発表への参加について、自主的に参加しているものも含め、把握しているのは2件だが、成果はあったと判断してよい。	B	本校代表として参加する各種発表会は、年度当初に係で共有はしていたが、その後の細かな情報共有が不十分であった。次年度は係会等でこまめに共有していきたい。
	生徒課	リーダー研修会の開催や地元大学や企業と協働し生徒が主体的に学ぶ場の設定や有識者の講演の機会を設ける。	生徒の自主性・自律性が向上し、リーダーシップを発揮し、主体的に学校行事や校外活動に取り組むことができる。	リーダー研修会の実施、アスリート授業におけるIPU大学との共同の学びの場を設定できた。	B	生徒が自ら身の回りの課題について学ぶ機会を求め、地元大学（岡山理科大学、環太平洋大学）と協働して取り組むことができ、ディスカッションや実践発表を行うことができた。	B	地元大学と協働して取り組む生徒会活動が実践できた。大学や企業と協働して、生徒が将来につながる学びや体験ができるように、場の設定を行いリーダーを育てられるように支援したい。

<p>ミッション追求のための取組</p> <p>教職員として</p> <p>すべての教職員が安心して生き生きと働けるような環境を共につくりあげる。</p> <p>⇒学校の実情に即した実践的校内研修の充実、協働的な職場づくり等</p>	総務課	<ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケートや新入生アンケートをもとに、広報の内容や方法を検討し、より効果的・効率的な広報活動を推進する。 学校評価に係る各種アンケートを実施し、結果の共有を図り学校改善の一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種広報活動における発信内容の充実が図られ、効率的・効果的な広報活動が行われている。 例年並みの志願倍率を維持している。 学校評価に係る各種アンケート結果が共有されている。 	<p>新入生アンケートを活用した広報により、より本校の特色を中学生やその保護者に伝えることができた。</p> <p>オープンスクールの教員アンケートをもとに、今年度中に次年度の内容を検討することを課内で共通理解している。</p>	B	<p>学校評価アンケートは、全教職員と共有し、各課室・年次団や個人の自己目標シートと連動するよう計画的な運用がなされた。自由記述欄も簡易分析により全教職員と共有した。近日中にホームページにも公開する予定である。</p>	B	<p>評価の年間スケジュールは、今年度から見える化したので、まだまだ発展途上である。全教職員で共有できるよう仕組みを考えていきたい。</p>
	管理職	<p>校内好事例の見える化及び好事例の実践、成果聴取を行う。また、教職員との個別面談や産業医による個別の助言を行う。</p>	<p>全教職員の時間外在校等時間の平均（1ヵ月当たり）及び2ヵ月平均80時間を超える教職員の人数が、それぞれ前年比5%減っている。</p>	<p>時間外在校等平均時間は前年度比(7月末現在)2.7%減少している。</p> <p>働き方改革における校内好事例(令和4年度)を全職員に紹介している。</p>	B	<p>全教職員の時間外在校時間の平均（1ヶ月当たり）は前年度比（11月末）4%の減。2ヶ月平均80時間を超える教員数（実人数）は前年度比13%の減。月100時間以上の教員数（実人数）は3名増えている。特定の教員の在籍時間が長くなっている。時間外の業務内容の確認とともに、業務の平準化を組織的に進める必要がある。</p>	B	<p>ミライムの修正の仕方等については個々に指導している。また折に触れ「働き方改革」を意識するように呼びかけた。これらが功を奏して全教員の時間外在籍等時間平均が前年度比4%減、前月との平均80時間を超える教員数が13%減となった。一方で100時間を超える教員数は増えている。該当教員と面談を行い、健康について確認はしているが、生活リズムの見直し、業務内容の精選、業務の平準化は急務である。</p>
	JLP	<p>生徒の自己実現に向けて小論文、入試面接等に関する教員の指導力向上を目指すための研修会を企画・運営する。</p>	<p>小論文伝達講習会などの研修会を実施し、小論文、入試面接等に関する情報を共有できる。</p>	<p>小論文伝達講習会は、開催が延期となっていたが、早急に日程調整を行い、実施できた。</p>	B	<p>小論文伝達講習会は、9月末に実施することができた。入試面接に関する情報は、進路検討会などのなかで紹介することができた。</p>	B	<p>小論文伝達講習会は、若手教員の研修をベースとして実施しているが、近年のテーマのトレンドや志望理由書の書き方も紹介できており、全教員にとって良い研修の場となっており、次年度以降も継続していきたい。</p>
	教務課	<p>職員室や印刷室のレイアウト等を工夫し、互いが気持ちよく使うことのできる職場環境をつくる。</p>	<p>職員室や印刷室が整備され、ストレスなく使うことができている。</p>	<p>年度末から年度当初にかけての大掃除で、長年に亘って蓄積されていた印刷室内の不要物を一掃した。</p>	B	<p>職員室や合併教室の不要品の廃棄を進め、ある程度整理整頓は進んだが、粗大ゴミの処分や必要物品購入のための予算立ては単年で完遂できなかった。</p>	B	<p>諸君室、印刷室、特別教室などをより使いやすい環境にしていくためには、数年かけた継続的な取組が必要である。同時に、学校評議員会でご教示頂いた改善の声の収集法を実践し、ニーズの把握をしていきたい。</p>
厚生課	<p>地震等の災害に対応できる実践的な防災避難訓練や防災について学ぶSHRを実施する。また、校内美化体制の整備、充実を図るため、美化委員会の活動を活発化させ、生徒が主体的に校内美化に取り組めるよう具体的な目標の設定や活動を支援する。</p>	<p>災害発生直後の教員・生徒の行動が明確で、スムーズな避難が可能な防災訓練や防災について学ぶSHRを複数回実施している。また、美化委員会を中心に重点目標が定められ、課題解決に向けて自主的な取組を実施している。</p>	<p>災害発生直後の教員・生徒の行動を明確にして、防災訓練を実施できた。また訓練方法や防災について学ぶSHRを実施した。美化委員会を中心に重点目標を定め、教員とも課題を共有して校内美化に取り組んでいる。</p>	B	<p>災害発生直後の教員・生徒の行動を明確にして、防災訓練を実施できた。また訓練方法や防災士について学ぶ等、SHRを複数回実施できた。美化委員会を中心に重点目標を定め、教員とも課題を共有して校内美化に取り組む機会をもつことができた。</p>	B	<p>教員・生徒の行動を明確にして防災避難訓練を実施できたが、雨天によりグラウンドの避難までは実施できていない。次年度の訓練計画に入れたい。教員と生徒で清掃の課題を共有して校内美化に取り組めた。普段の清掃活動へもつなげていきたい。</p>	
<p>重点的取組</p> <p>(1) ICT活用も含めた組織的な授業研究に取り組み、「10の資質・能力」を学校として総合的に育成する。</p>	JLP	<p>教務課・進路指導課とともに「10の資質・能力」の育成を図るための授業参観やOJTなどの研修会等を企画・運営する。</p>	<p>教科ごとの研修会や全体での研修を実施し、「10の資質・能力」を育成する基盤となる学習評価方法などを共有できる。</p>	<p>全校生徒に配布された「10の資質・能力」を元に各教科で授業において育成する力を教科会議で話し合い、その評価方法について共有が図れつつある。</p>	B	<p>「10の資質・能力」を元に各教科で授業において育成する力を教科会議で話し合い共有が図れつつある。授業アンケートにもその視点をいれ実施、OJTで検証することができた。</p>	B	<p>「10の資質・能力」の視点を入れた授業アンケートを実施したことにより、各教科の特徴・課題がみえてきた。教科の枠を超えて授業研究することで、授業改善につなげていきたい。</p>
	教務課	<p>「10の資質・能力」についての自己評価アンケートを実施し、生徒自身が現状を振り返ることができ評価票を作成するとともに、授業改善に向けて教員間の授業参観等で「10の資質・能力」を意識した意見交換を促す。</p>	<p>「10の資質・能力」を軸として、生徒自身が自己評価を通して現状把握と改善に向けた行動を起こし、教職員が授業改善に向けて視点を共有し、改善点を明確にすることができている。</p>	<p>6月上旬に全校生徒に「10の資質・能力ルーブリック」を配付し、それぞれの資質・能力について理解を深めるとともに、それぞれの資質・能力に照らした各自の現状について回答するアンケートを実施した。アンケート結果は、担任との面談で活用した。</p>	B	<p>「10の資質・能力」について、9月に生徒の認識を高めるために中間自己評価を行い、結果について生徒個々に個人票を返却した。その上で12月には昨年に続いて本調査を実施し、全校の89.7%から回答を得た。結果については、教員には分析シート、生徒には個人票でフィードバックした。</p>	A	<p>調査の年間を通した枠組みや結果を教員、生徒にフィードバックする仕組みを確立したことで、12月本調査では、調査締切の翌日には教員、生徒ともに結果を提示することができた。</p>
	進路指導課	<p>JLPや他の分掌と連携して、新教育課程やそれに基づく大学入試で求められる力の育成に資する研修会への参加や伝達講習会の実施、入試に関する情報の収集を推進し、多様な進路の実現のための指導体制を確立する。</p>	<p>新教育課程やそれに基づく大学入試で求められる力を身につける手立てとして、補習や土曜講座、実力テストのあり方が具体化され、共有されている。</p>	<p>教科情報の2年次での学習法も含め、補習や土曜講座について、各年次・進路課で協議して実施している。</p>	B	<p>校外の研究会や研修会への参加を促し、内容・情報を共有した。校内研修についても、校外の研修会に参加した若手教員が講師をつとめるなど、お互いに研鑽を深めることができた。土曜講座については参加教科、参加者ともに少なかったため、もう少し広げられるよう工夫したい。教科情報については、2年次末から3年次に向けての指導について検討・計画中。</p>	B	<p>生徒対象の学習支援の講習会や大学の説明会などに参加する教員が少しずつ増えてきた。この流れを大切に広げていきたい。新教育課程での入試について、3年団や各教科と連携を深めて協議、対応していきたい。</p>
<p>重点的取組</p> <p>(2) 多様な生徒のキャリア upgrade を図り、キャリアカウンセリングやニーズに応じた種々の活動を充実させ、主体的なキャリア形成に資する。</p>	JLP	<p>生徒課とともに、マナー講座や部活動に関する研修会等を企画・運営する。</p>	<p>マナー講座や研修会が実施できる。</p>	<p>生徒課とともに、マナーに関しての注意喚起を、HRなどを通じて周知することができた。</p>	B	<p>生徒課などとともに、マナーに関しての注意喚起を、SHR中心としてさまざまな場面でを行い、周知することができた。</p>	B	<p>マナーに関しては、注意をうけることもあるので、今後も随時、大切さについて教員間で連携を図り、生徒に伝えていく必要がある。</p>
	相談課	<p>現在の教育相談体制の維持・充実を図るとともに、様々な機会を捉えて教育相談的な発想を浸透させ、主体的なキャリア形成の伸長に寄与する。</p>	<p>①校外のカウンセラー、相談機関との連携を維持・発展させる。②進路面談に教育相談的な発想を生かし、自立の精神を涵養させる。</p>	<p>カウンセラー、校医、SSWとの連携はよく取れている。担任・保健室との意思疎通も図れており、早めの対応が行えている。</p>	B	<p>1年次生と保護者・教員の評価が向上したのには、行事などの実施体制が以前の状況に戻ってきたことの影響が考えられる。これからも、細やかに速やかな対応を心がけたい。</p>	B	<p>教育相談に関する校内また校外の諸機関との連携はよく図られているので、この体制を維持・充実させていきたい。さらに予防面までも視野に入れたピア・サポート等も推進したい。</p>
<p>重点的取組</p> <p>(3) 地域と協働して生徒を育てる体制をより充実させるとともに、生徒が主体的に地域の活動等に参画しようとする意欲を高めるよう支援する。</p>	図書文化課	<ul style="list-style-type: none"> リーフレットの配布や配信、オリエンテーションや展示等を通じて、生徒や先生に図書館が備えている機能を知ってもらい、活用を促す。 委員会活動の活性化により、人と本をつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業や探究的な学習において、生徒が図書館の機能をうまく活用している。 生徒の内面の深化を実現できる。 	<p>9月末までで昨年度に比して、授業での図書室の活用頻度は22%増である。司書によるインスタグラムでの発信等も功を奏した。委員による読書会の運用等により、内面の深化も見られる。</p>	B	<p>インスタグラムでの発信や探究学習用ポータルサイトの運用等により、生徒の探究活動がより円滑に行えるようになった。図書委員会を中心とした読書会や校内行事の開催、外部行事への参加により、読書を通じた交流や思考が深まった。</p>	B	<p>読書量の減少は否めないため、学習や探究活動における書籍の利用を促し、生徒に多様な視点から学ぶ必要性を認識させたい。さらなる知性と情操の充実のために、生徒に多様な読書機会の提供を行いたい。</p>
	生徒課	<ul style="list-style-type: none"> 小学生学習支援ボランティア（ジョトスタ）において1～6年生までを受け入れる。 保育園とこども園の交流会を年間4回実施する。 	<p>地元企業と協働して、地域の保育園・こども園・小学校と交流するなどの社会貢献活動を通して、生徒の自己肯定感と社会性を高める。</p>	<p>小学生学習支援ボランティア（ジョトスタ）において1～6年生までを受け入れができた。（メディアの報道もあった）</p>	A	<p>社会貢献活動をコロナ禍前の規模に戻すことができたことで、生徒の社会貢献活動の機会が昨年度より増加した。継続して地元事業所へ関わっており地域に根ざした社会貢献活動が定着したといえる。</p>	A	<p>今後も継続して地元地域に根ざした活動を行い、地域貢献と生徒の自己肯定感を高められる活動を生徒へ提供したい。</p>
	GLOBAL	<p>「自主性・自律性を育成する取組」において、地域の活動等に自主的・自律的に行動できる生徒の育成を図る。</p>	<p>自主的に社会貢献活動に取り組む生徒の人数がのべ400人を超える。</p>	<p>7月に実施した学習支援ボランティア「ジョトスタ」では、1年次生全員に加え、2年次生38名、3年次生6名が自主的に参加し、積極的に活動した。掲示板を活用したボランティア募集等、生徒への告知方法もより工夫した。リーダー研修会においても、スマートフォンの利用マナー等、生徒自ら課題を設定し、クラス討議を行うなど、自主的・自律的な行動力を育成している。</p>	A	<p>ジョトスタ、献活デー、吉備路清掃、岡山マラソンボランティア、JR東岡山駅前清掃等、多くの活動場を設定し、参加した生徒の人数は延べ数で1000人を超え、目標は達成できた。第2回リーダー研修会では、生徒の要望で外部講師を招き、事前打ち合わせから礼状まで、これまで以上に生徒が主体的に考えて運営する支援ができた。</p>	A	<p>1年間のボランティア活動の予定を見える化して、生徒がより主体的に参加するように工夫するなど、よりよい仕組みづくりについて協議を進めていきたい。</p>